

読みやすい、伝わる 文章の作り方

読みやすい、伝わる文章の作り方

- エアークロゼットでは、スタイリストとお客様のコミュニケーションを『**文章**』で行っています。

そのため、読みやすく、相手に伝わる文章を心がけることが満足度の高いスタイリングにつながります。



①主語と述語は近づける

- 文章を作るときは、主語と述語をあまり離すことなく、ワンセットとして考えます。ある主語に対する述語がいつまでも出てこないと、読者はイライラしてしまいます。述語の位置は、主語の後ならどこでもいいのです。明確な規則はありません。

例文：鮮やかな色味のワンピースは、春らしいアイテムです。

修飾語

主語

形容詞

述語

②不用意に主語を省かない

- 文章は、主語と述語でワンセットです。不用意に主語を省くと、おかしい文章になってしまうケースがあります。また、話し言葉で文章を作ると、主語が抜けやすくなりますので注意してください。主語を省略する場合は、主語がわかりやすい述語を使いましょう。

例文：×今回、フレアスカートと～←**主語はどこ??**

○今回は、フレアスカートと～←「**今回は、**」が**主語**

③ 同じ言葉、同じ言い回しを避ける

- 文章がしつこく感じる原因のひとつに、同じ言葉や同じ言い回しの繰り返しがあります。文章の繰り返しは、文章のリズムまでおかしくさせてしまいます。同じ文章の中で、同じ言葉や言い回しを連続させると、しつこく感じるだけでなく、格好悪い印象になります。また、主語が抜けていても意味が伝わる文章なら、無理に主語を入れなくてもいい場合があります。

例文： × シルクブラウスは上品な印象に。シルクブラウスは着心地も抜群。

○ シルクブラウスは上品な印象に。また着心地も抜群。

→ (主語が抜けていても伝わる文章ならOK)

④ 【重複表現】 同じ意味の言葉を繰り返し使わない

● 同じ意味の語を重ねた言葉を**重複表現**といいます。文章を書く時、わかりやすい言葉を選んで書こうとすると、案外やってしまいがちです。

重複表現は、読み手にうっとうしい印象を与えることもあります。ただし、強調表現とも取れるので、一概に間違いではありません。

例文： × 馬から落馬する ・ 頭痛が痛い ・ 不快感を感じる

○ 馬から落ちる ・ 頭が痛い ・ 不快感がある

⑤ 「~の」は2回まで

- 単語と単語の間に丁寧な説明をしようとして、無意識に「の」が繰り返されてしまう時があります。3回以上「の」が続くと、読みづらい文章になってしまいます。

例文： × 白のスキニーのパンツのコーディネートは

○ 白のスキニーパンツのコーディネートは

(ホワイトスキニーパンツでもOK)

とするとスッキリすると同時に入ってきやすくなりませんか？

違う言葉に言い換える、まとめるなど工夫してみてください。

⑥表記の一貫性を保つ

- 表記に一貫性がないと、あいまいな感じがして、何となく信頼性に欠ける文章になってしまいます。

物事を列記する時は、常に表記方法の**一貫性**を意識しましょう。

例文： × お気に入りからビジュア付きのブラウスを～

○ お気に入りアイテムからビジュア付きのブラウスを～

⑦ 「ら抜き言葉」は文法的に誤り

- 「ら」を抜く「ら抜き言葉」の使用については、“受身・自発・尊敬の意味に使う「られる」と可能の意味で使う「れる」を区別する方が合理的である”とする考えもあるようです。

しかし、書き言葉での「ら抜き言葉」は、文法的に誤りであるため現段階では使用しない方が良いでしょう。

例文： × オンオフどちらにも着れます。

○ オンオフどちらにも着られます。

⑧修飾語は名詞（動詞）を修飾するもの

- 例えば、「青い空」の形容詞「青い」は、名詞「空」の修飾語です。
- 「窓のそばに立っている少年はトムである」の場合、「窓の」が「そばに」の修飾語で、「窓のそばに立っている」が「少年は」の修飾部になります。
- 修飾語は**、主語をより詳しく説明したり、あり方などを表現する語のこと。

例文：シックで 華やかなワンピースは、

修飾語 修飾語

さいごに

- 自分の文章は、全体を通して読み返した際に、読みやすい、伝わる文章であるのかどうかを確認してください。

カルテの内容や、これまでのフィードバックからもお客様の意図を読み取り、**円滑なコミュニケーション**を心がけましょう。



~MEMO~